～ふくしまの歴史と文化財～

文字摺通信

第 87 号
2025年 5月 1日
発行:文字摺歴史文化社

伊達輝宗・畠山義継の死・その真相は？

粟之須古戦場の碑を見て考えたこと

４月３日、輝宗の首塚のある慈徳寺（福島市佐原）の檀信徒さんを案内して、二本松市にある粟之須古戦場へ行ってきました。ここは、和睦と称して輝宗がいる宮森城（小浜）へ行った畠山義継が輝宗を拉致し、二本松城へと向かいます。宮森城に居た成実等は主君（この時点ではてるむねは政宗に家督を譲り、隠居の身）を追いかけ、阿武隈川を渡る前に何とかしようと、粟之須で畠山義継に追いつきます。しかし、義継が刀を輝宗に就き付け、ぴたりと身を寄せているため、鉄砲を撃つわけにもいきませんでした。

昭和６２年のNHK大河ドラマ「独眼竜政宗」（現在BSで再放送中）では、鷹狩に出ていた政宗が報を聞き、輝宗たちを追いかけ、粟之須で追いついたが、輝宗は馬の鞍壺に抑え込まれており、手を出すことができない。しかし、父を二本松に連れ去られては蘆名方の人質になり面目を失う、切歯扼腕する政宗の耳に輝宗の叫びが聞こえた。「政宗、わしもろとも討ち果たせ！」。政宗は一斉射撃を命じた。断腸の思いの決断であった。

この大河ドラマの原作は山岡荘八の『伊達政宗』です。原作の中のこの場面、政宗は出てきません。藤五郎（成実）と輝宗の間で次のように交わされます。

「藤五郎、ここだ。輝宗はここにおるぞ。ここへもう一発、鉄砲を射込むのだ」

「それはなりませぬ！月明りでは、大殿と義継の区別はつかぬ。過って大殿を射つやも知れません」

「たわけめ！わしを生かして二本松へ送り込んだらどうなると思うのだ。わしの体もろとも義継めを射ち抜くのだ」